

## 2 問診票の活用 知的財産活動に関する50の質問

### (1) 問診票・診断書(問診セット)の構成

本書では、知的財産活動の現状を把握するための問診セットとして、企業に記入を依頼する【様式1：問診票】と、面談者が支援記録に使う【様式2：診断書】の2種類を用意した(巻末参照)。以下、問診セットの構成と狙いについて解説する。

「問診票」(巻末様式1)は、50の短文で構成され、回答は「はい」「いいえ」の二者択一方式となっているが、一部には自由記述欄も設けている。50の質問は、第II章で解説した定着モデルの考え方を基礎にしており、以下の4つのグループに分類される。

---

Group1 「知的財産活動の経営戦略上の目的・位置づけ」に関するQ1～Q12までの12問

Group2 「知的財産活動を実践する仕組み」に関するQ13～Q35までの23問

Group3 「法制度・実務および知的財産戦略・知的財産経営に関する知識」に関する  
Q36～Q46までの11問

Group4 「知的財産活動の成果」に関するQ47～Q50までの4問

---

このうち、Group1は定着モデルにおける「知的財産活動の経営戦略上の目的・位置づけ」に、Group2は定着モデルにおける「知的財産活動を実践する仕組み」に、それぞれ対応した質問である。これに対してGroup3には、「知的財産戦略・知的財産経営」「法制度・実務」の汎用的な知識という、定着モデルにおける2つの要素に対応した質問が含まれている。Group4は定着モデルには含まれない要素で、ここまで質問で確認した知的財産活動がどのような成果に結びついているか、「知的財産活動の成果」を訊ねる質問となっている。

Group1からGroup3までの質問は、質問の流れをわかりやすくするために、各々のグループを2～3の小グループに細分化しており、問診票全体は9つの小グループで構成されている。



## ▼Group1 知的財産活動の経営戦略上の目的・位置づけ

- Group1-1 Q1～Q6は知的財産活動の目的・経営上の位置づけについての6問

Group1-2 Q7～Q12は知的財産活動の意義（知的財産活動の経営戦略上の目的や位置づけ）の  
浸透についての6問

前半では、知的財産活動の目的・位置づけが経営レベルでどの程度意識されているか、後半では、その目的・位置づけが社内や社外の関係者にどの程度浸透しているかを質問する流れになっている。

#### ▼Group2 知的財産活動を実践する仕組み

- Group2-1 Q13～Q17は知的財産活動を推進する組織体制・役割分担についての5問

Group2-2 Q18～Q24は知的財産活動における業務の流れ等のルールについての7問

Group2-3 Q25～Q35は知的財産活動に必要な規程・書式類の整備についての11問

ここでは、知的財産活動を実践するための仕組みを、組織体制・役割分担等の組織面、社内での業務の流れ等のルール面、規程・書式類など様式面に分けて質問する流れになっている。

### ▼Group3 法制度・実務および知的財産戦略・知的財産経営に関する知識

- Group3-1 Q36～Q39は知的財産に関する法制度や実務の理解についての4問

Group3-2 Q40～Q42は社外の専門家との連携についての3問

Group3-3 Q43～Q46は知的財産に取り組むことの意義や効果についての4問

このうち「法制度や実務に関する基礎的な知識」、「社外の専門家との連携」では、定着モデルにおける汎用的な知識のうち、主として「法制度・実務」に対応する知識の状態を確認する。「知的財産に取組むことの意義や効果」では、定着モデルにおける汎用的な知識のうち、主として「知的財産経営・知的財産戦略」に対応する知識の状態を確認する。

## ▼Group 4 知的財産活動の成果

- Q47～Q50は知的財産活動の具体的な成果についての4問

最後に、これまでに質問した知的財産活動による成果を経営者がどのように捉えているか、これらの質問を通じて確認する。

ヒアリングを行う面談者が記入する「診断書」(巻末様式2)は、支援先企業が記入した問診票を用いてヒアリングを行う際に、第II章で解説した定着モデルの考え方沿って、支援先企業の知的財産活動の現状と課題を分析するために用いられるものである。診断書は、問診票と同じ9つの小グループ毎に、問診票とヒアリングから明らかになった情報を整理して記入する形式となっており、問診票と同じ4つの大グループ毎に総括や特記事項を記入するコメント欄も設けている。

### 1. 知的財産活動の経営戦略上の目的・位置づけ

- ① 知的財産活動の目的は明確かつ具体的か
- ② 知的財産活動の目的は経営課題に沿っているか
- ③ 知的財産活動の目的が社内外の関係者に浸透しているか

### 2. 知的財産活動を実践する仕組み

- ① 組織体制・役割分担が整備されているか
- ② 業務の流れ等のルールが定められているか
- ③ 規程・書式類が整備されているか
- ④ ①②③は、知的財産活動の目的や企業のリソースに合致しているか
- ⑤ ①②③が実際に運用されているか

### 3. 法制度・実務および知的財産戦略・知的財産経営に関する知識

- ① 知的財産に関する法制度や実務を理解しているか
- ② 知的財産戦略・知的財産経営に関する理解は十分か

### 4. 知的財産活動の成果

- ① 知的財産活動の具体的な成果が現れているか

診断書は、支援先企業に事前に記入した問診票を用いてヒアリングを行い、ヒアリング中に気付いた内容を記入する際や、ヒアリング後に支援先企業の知的財産活動の現状を定着モデルに沿って整理し、内容をまとめると用いることができるもので、各項目欄には記入する際のヒントを付記してある。